

核酸アナログ投与中の B 型肝炎例における HBV 関連マーカーと発癌率の関連についての研究

① **実施期間**: 2023 年 12 月 31 日まで

② **研究機関**:

大阪大学医学部付属病院 消化器内科、市立伊丹病院 消化器内科、東大阪市立総合病院 消化器内科、
大手前病院 消化器内科、住友病院 消化器内科
市立西宮中央病院 内科、国立病院機構 大阪医療センター 消化器科
大阪警察病院 消化器内科、NTT 西日本大阪病院 消化器内科
関西労災病院 消化器内科、大阪厚生年金病院 消化器内科
市立八尾病院 消化器内科、市立吹田市民病院 消化器内科
市立芦屋病院 内科、済生会千里病院 消化器内科
県立西宮病院 内科、国立病院機構大阪南医療センター 消化器科
市立豊中病院 消化器内科、大阪府立成人病センター 肝胆膵内科
市立箕面病院 内科、大阪労災病院 消化器内科
大阪府立急性期・総合医療センター 消化器内科、公立学校共済組合 近畿中央病院 消化器内科、市立
池田病院 消化器内科

③ **主任研究者**: 大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 竹原徹郎

④ **研究目的**:

B 型肝炎における抗ウイルス治療の目的は主に発癌抑制であり、抗ウイルス治療により HBV DNA が低下し肝炎が鎮静化することで発癌抑制効果が得られると考えられています。抗ウイルス治療薬の一つである核酸アナログは HBV の逆転写酵素阻害薬であり、現在わが国で広く用いられている治療法です。核酸アナログ製剤は強力なウイルス複製抑制効果を発揮し血中 HBV DNA を効率よく低下させますが、肝細胞内のウイルスに対する作用が弱いため発癌抑制効果が不十分である可能性があります。本研究では、核酸アナログ治療中の B 型肝炎例における HBV 関連マーカーと発癌率の関連について検討するために、保存血清ならびに採血時の余分血液を用いて核酸アナログ開始後の HBV 関連マーカーを測定し、核酸アナログ治療中の HBV 関連マーカーの変動と発癌との関連について検討します。

⑤ **対象**: 核酸アナログを 1 年以上投与されている B 型慢性肝炎患者さんを対象とします。

⑥ **研究方法**:

大阪大学消化器内科および共同研究機関において、電子カルテから上記対象者の情報を収集・解析します。

⑦ **利用する者の範囲**:

大阪大学消化器内科および共同研究機関

⑧ **試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称**:

大阪大学消化器内科学 山田涼子

⑨ プライバシーの保護:

本研究では B 型慢性肝炎患者さんの治療経過を研究対象とします。プライバシー確保のため、患者さんが特定できないようにデータを処理した上で研究解析を行います。また、研究結果を公表する際には、患者さん個人が特定されることはありません。

⑩ 本研究に関する問い合わせ先:

市立吹田市民病院 消化器内科 吉田雄一

〒564-8567 大阪府吹田市岸部新町 5 番 7 号

連絡先電話番号:市立吹田市民病院消化器内科(06-6387-3311)

または

大阪大学消化器内科学 山田涼子

連絡先電話番号:大阪大学消化器内科学(06-6879-3621)